

# 第1回 幸田町地域公共交通会議 議事録

- 1 開催日時 令和4年7月25日(月) 10:30～正午 ※準備会に引き続き開催
- 2 開催場所 幸田町保健センター 2階 視聴覚室
- 3 出席者

## 【委員】

区分	職名等	氏名	備考及び代理出席者等
学識経験者	名古屋大学 未来社会創造機構 モビリティ社会研究所工学科 教授	森川 高行	会長
	名城大学 理工学部 社会基盤デザイン工学科 教授	松本 幸正	副会長
交通事業者等	愛知県タクシー協会岡崎支部 支部長 (岡陸タクシー(株))	浅岡 林平	
	幸田タクシー株式会社 代表取締役	芳賀 玲子	配車担当 太田 眞佐志
	株式会社レミックス 代表取締役	池田 広史	
	町内交通事業者 運転手代表 (株レミックス)	三浦 節夫	
住民・利用者	幸田町区長会 会長	稲吉 好司	
	幸田町商工会 会長	神取 勇	
	幸田町老人クラブ連合会 会長	稲吉 勲周	
	幸田町身体障害者福祉協会 会長	加藤 雅敏	欠席
	幸田町手をつなぐ育成会 会長	小山 興建	
	幸田町聴覚障害者福祉協会 会長	高橋 恵子	
行政	国道交通省 中部運支局 愛知運支局 首席運輸企画専門官	山内 三奈	
	愛知県都市・交通局交通対策課 担当課長	大林 益英	
	愛知県 西三河建設事務所 維持管理課長	増岡 浩仁	欠席
	愛知県警察 岡崎警察署 交通課長	稲吉 昌志	警部補 角谷 望
	幸田町 副町長	大竹 広行	

敬称略

## 【事務局】

職名	氏名	備考
幸田町 企画部 企画部 部長	成瀬 千恵子	事務局長
幸田町 企画部 企画政策課 課長	稲熊 公孝	
幸田町 企画部 企画政策課 主幹	柴田 淳一	
幸田町 企画部 企画政策課 主査	内田 大貴	

## 4 会議次第

- 1 会長及び副会長の選任
- 2 監査委員の指名
- 3 地域公共交通会議の概要
- 4 議題（幸田町の公共交通概要）
  - (1) 幸田町都市交通マスタープラン
  - (2) 幸田町の公共交通の現状について
- 5 その他
- 6 閉会

## 5 資料

- ・ **資料4** 活発で良い議論ができる会議のために  
感染対策してさあ公共交通でおでかけだ  
バスのシカクにご用心
- ・ **資料5** 幸田町都市交通マスタープラン（概要版）
- ・ **資料6** 幸田町の公共交通の現状
- ・ **資料7** 次年度以降のスケジュール案
- ・ その他参考資料（チラシ及びパンフレット等）

## 6 議事内容

### 1 会長及び副会長の選任

- ・ 幸田町地域公共交通会議設置要綱第6条に基づき下記のとおり会長及び副会長が選任された。  
会 長：名古屋大学 未来社会創造機構 モビリティ社会研究所 教授 森川 高之 委員  
副会長：名城大学 理工学部 社会基盤デザイン学科 教授 松本 幸正 委員

（森川会長挨拶）

幸田町とは 20 年程前からの長い付き合いになる。当時は、循環型環境都市に向けてのお手伝いや相見駅や付近の開発において関わらせていただいた。現在でも交通関係の事業で関わらせていただいているため、幸田町の公共交通はよく知っている。これから公共交通会議を運営していくにあたり、副会長の松本先生が関わっている幸田町都市交通マスタープランをもとに具体的な施策等について議論をしていくことに協力できればと考えている。

（松本副会長挨拶）

幸田町には都市計画審議会でお手伝いをさせていただいている。公共交通については岡崎市と蒲郡市でもお手伝いをさせていただいている。公共交通というものは自分の地域だけでなく、隣接の自治体との連携が大事となる。状況によって近隣市町への乗り入れ等も考えられるので御協力できればと思っている。いずれにしても森川会長をしっかりと支えて進めてまいりたいと考えている。

## 2 監査委員の指名

- ・幸田町地域公共交通会議設置要綱第16条に基づき、会長より下記の委員2名が監査委員に指名された。

株式会社レミックス 代表取締役 池田 広史 委員  
幸田町区長会 会長 稲吉 好司 委員

## 3 地域公共交通会議の概要

- ・愛知運輸支局 首席運輸企画専門官 山内委員より資料4に基づいて説明

## 4 議題（幸田町の公共交通概要）

- ・事務局より資料5及び資料6に基づいて説明

### 【質疑等】

委員：えこたんバスの利用者が令和元年度から3年度にかけて減少している。コロナだけの影響だとは思えないが、減少理由についてわかっていることがあったら教えてほしい。

事務局：令和2年度当初は新型コロナウイルス感染拡大の影響により学校が休校となっていた時期があり、それに伴いスクールバスとしての利用者が減少したことが考えられる。

委員：えこたんバスの利用者については令和2年度から令和3年度にかけて減少しているが、スクールバスの利用者の減少分を差し引くと200人程度減少している。この200人についての減少理由については分析する必要がある。

委員：チョイソコこうたが令和2年度にスタートしているため、えこたんバスの利用者がチョイソコこうたに流れたということも考えられる。

事務局：えこたんバスの利用者の減少については、コロナの影響が大きいと思われるが、その他の要因について調査させていただき次回、報告させていただく。

委員：名古屋や豊橋へ行き来するのに幸田町の駅に快速電車が止まると良いが、それを推進するにあたっての問題はどのようなものか？また地域公共交通会議で推進できるものなのか？

会長：快速電車の停車については地域公共交通会議の範囲外ではあるが、例えば、幸田駅の利用促進という観点であれば関係していると考えられる。

事務局：快速電車の停車については、JR東海からは、利用者の人数が要件として挙げられ、幸田駅について言えば構造的にもう少し拡張する必要があると聞いている。幸田町からの要望という形になると、改修費用は全額町の負担となるため、慎重に考えていかなければならないと考えている。

委員：資料6の25ページによると、タクシーやえこたんバス等についてあまり利用されていないという結果だが、どのような理由か？

事務局：幸田町が他市町に比べて若い人が多いこと、免許証の返納者が少ないことが考えられるが、本会議では将来を見据えて町民の皆様が円滑に移動できるような検討をしていきたい。

会長：福祉タクシーや高齢者タクシーは利用者が限定されているため、町民全員を対象とした調査であれば、利用者が少ない結果となっても不思議ではない。タクシーを利用したことがない人が多いのは意外だが、それだけ自家用車の移動が生活に根付いていると考えられる。

委員：そもそもバス停がどこにあるのかわからない。また、沢渡公園のバス停は交通量が多いところにあるので危険だと感じた。座るところがなく、日陰もないので夏は利用しにくいとも感じた。

事務局：バス停の位置について改めて周知する必要性と、乗り継ぎを含めてデジタルを活用して分かりやすいものにしていくことを進める必要があると考えている。危険なバス停については所管課に報告させていただき対応策を検討することとする。

副会長：これを機会に沢渡公園のバス停に限らず、点検を行っていただきたい。  
率直に考えて幸田町の公共交通は充実していると思う。  
しかし、町として目指す将来像をしっかりと見据える必要がある。もっと多くの方に利用してもらえらる便利な公共交通とするのか、高齢者等への支援としての公共交通とするのかなど。  
企業バス等も走っていると思われるので、そのような情報も整理して次回提示していただきたい。  
交通事業において企画政策課、財政課、企業立地課と所管が分かれているが、そのあたりの連携体制はどのようになっているか？

事務局：各課でそれぞれ交通施策を行っているため、庁内会議を開催し情報共有を行っている。縦割りとならないように進めていきたい。

委員：幸田駅前のロータリー整備により、一部の企業から使いにくくなったという声を聞いた。企業バス等に配慮して整備を進めてもらいたい。

委員：朝、三ヶ根駅西口で渋滞する。7時30分頃に企業のバスがロータリーに入れられない状況を見たことがある。信号があるとよいのではないか。

事務局：信号設置については防災安全課に伝えさせていただく。三ヶ根駅のバリアフリー化や西口ロータリーの見直しについての研究は企画政策課を所管課として進めている。

委員：高齢者の支援なのか、3駅を中心した公共交通の利便性とするのかなど、目的をわかりやすくしていただくと意見等も言いやすくなると思う。

事務局：目指すべきところについては一度整理させていただき次回の会議でお示しできればと思っている。

委員：坂崎コミュニティライドについて企業立地課が所管している理由は？

事務局：名古屋大学COIの研究の延長線上にあるものであるため、所管課である企業立地課が進めている。

## 5 その他

事務局より資料7について説明

## 6 閉会

事務局長：短期的に可能なこと、長期に渡って進める必要があること、様々なケースが考えられるが、デジタルの活用やアフターコロナを見据えて、利用しやすい公共交通を構築できればと考えている。それぞれの立場でのご意見をいただければと思っているため、今後ともよろしくお願ひしたい。